

2. キャンペーン「地域と語ろう隊」

8月13日(土) 地域と語ろう隊・箱崎編・予告記事

「アジアのリーダー都市ふくおか！プロジェクト」に合わせ、西日本新聞社が市内各所で地域の課題とその解決策を考える座談会を行いました。

去りゆく九大 将来像どう描く

東区箱崎地区の中心部は南の鶴崎宮、北の九州大学箱崎キャンパスに挟まれる形で発展を遂げてきた。それが今、大学キャンパスの移転によって大きな転換点を迎えようとしている。

箱崎キャンパスは0.9縮小や空洞化が懸念され10年度までに伊都キャンパス(西区・糸島市)に移転予定。九大による3号と交通基盤が整っていると、約4分の敷地はすべて売却する方針で、自治体・民間を問わず売却先を検討するという。

去れば、一般には地域の拠点を失う。ただ、人口増必ずしも街の活性化に直結しない。地元商店街は郊外の大型に負を奪われ続け、新住民と旧住民の意識差が交流を妨げている現状がある。

25年後の将来像をどのように描くか、発展の翼を担ってきた箱崎宮を



住民が連携し にぎわう街に

中心に、商店街を活性化の起爆剤にしようとする動きがある。地元のみならず、団体も企画する秋の「放生活」と運動したイベントは例年好評だ。にぎわいを一過性に終わらせないことや、空き店舗の活用、出店の意欲を持つ若い経営者との連携などが課題に挙がる。

九大の跡利用が具体像を結ばない中で、地域の将来を語るのは難しい面もある。住民の1人は「跡地の行方は、周辺地域がどんな「街の色」なのかを左右する。だからこそ今のうちに、住民が連携してにぎわう街にしなければならぬ」と指摘する。新たな魅力創出に箱崎地区が動き出す。(阿比留北斗)

東区・箱崎地区 新たな魅力創出へ

九大の跡利用が具体像を結ばない中で、地域の将来を語るのは難しい面もある。住民の1人は「跡地の行方は、周辺地域がどんな「街の色」なのかを左右する。だからこそ今のうちに、住民が連携してにぎわう街にしなければならぬ」と指摘する。新たな魅力創出に箱崎地区が動き出す。(阿比留北斗)

地域課題や目指すまちづくりを記者が住民たちと討論する本紙の「地域と語ろう隊」が、出動します。25年後の都市像を見据える福岡市の新ビジョン策定に合わせ、今回は月内に市内4カ所で開催

16日、初回は箱崎で開催

本紙記者が10月4日、16日に福岡市

8月18日(木) 地域と語ろう隊・箱崎編・詳報記事

九大転出進む東区箱崎で討論



箱崎公会堂で、箱崎のまちづくりを活発に議論した

まちづくりの好機に

「人の輪広げ人材発掘」「歴史や文化は財産」

住民と記者が知恵を出し合い、地域課題解決策を探る西日本新聞社の「地域と語ろう隊」は16日夜、九州大学のキャンパスが移転する福岡市東区箱崎で、まちづくりをテーマに討論した。去りが去った後の街はどうなるのか、自分たちは何をやるべきなのか、出席者は明日を以て想いをぶつけ、活発意見交換した。

討論は、25年後の都市像を画する福岡市の「新ビジョン」策定に合わせた企画。まちづくりの強みである箱崎宮を会場に、箱崎まちづくり委員会(会長▽糸島紀子)と出席者は、意外なほど動機や反発はない。

出席者は討論に先立ち、街歩きを兼ね、これを受けて討論は九大と並立している。箱崎宮と地帯活動の連携、商店街振興や安全安心のための道づくりにも及んだ。全員の「金銭転換を後ろ向きにとらず、街を再構築するチャンスにしよう。25年後のために、いま考え行動しよう」と思いを語り、討論締めくくった。

福岡東区高(阿比留北斗)



箱崎のまちづくりを活発に議論した

8月20日(土) 地域と語ろう隊 脇山編・予告記事

後継者不足や過疎化に懸念



脇山小学校前の田んぼで毎年行われている田植え行事。地区外からの参加者も多い

農業地帯の活路どう開く



福岡市の南端に位置する早良区脇山地区は、倉庫山麓に広がる中山間地域。緑豊かな農村の風景を残す一方、過疎化が進む。地域課題の解決策を考える日本新聞社の「地域と語ろう隊」は21日、市街地に近い農業地帯の活路をう見いだすかを論点に、脇山公民館で住民と記者の座談会(非公開放)を開く。

J A福岡市脇山支店に 天皇への献上米も作られる。と、脇山地区の耕作 面積は約144ヘクタール。昭和 在も受け継がれている。 生産調整(減反)による 休耕地や耕作放棄地は 耕作地の1割程度。農家 の平均年齢は68・3歳。 いずれも市内の農業地 帯の平均とはほぼ等しい。 後継者不足は深刻で、今 後、農地の荒廃や過疎 化が進むことが懸念され

都市部との交流が鍵

いま住民が期待を込めて取り組むのが、都市部住民の親子が日帰りして農作業体験をする「子どもクローンツアー」だ。2年前に市から引き継いだ事業は好評で、リピーターも増えていった。

都市部住民との交流は「農地の保全」「地元農産物の販売促進」といった効果に加え、定住人口増の可能性も広げる。そこに、農地利用の制限や移住希望者と地元側との意識差などの課題も浮かび上がってきた。

「元気な農村」を取り戻すために、都市部の活力を取り込む具体策が求められている。

(福岡西支局・石田剛)

8月22日(月) 地域と語ろう隊 脇山編・詳報記事

市街地に近い利点武器に 農地を社会貢献の場所へ



出席者(左)は、結集する福岡市の「都市」とは利益あり、交流が武器になるという意見。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。

出席者(左)は、結集する福岡市の「都市」とは利益あり、交流が武器になるという意見。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。

出席者(左)は、結集する福岡市の「都市」とは利益あり、交流が武器になるという意見。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。

過疎化進む早良区脇山で座談会



昭和天皇即位の際に献上米が作られた「主基斎田」の跡を訪ね、脇山の農業を学ぶ出席者たち



都市型農業の将来をめぐって「社会貢献の拠点を持つ」「消費地と交流が必要」など多様な意見が交わされた

早良区脇山地区で座談会を開き、市街地に近い農業地帯の活路をめぐって意見交換した。過疎化が進む地域に、力をもたらす農業あり方は、出席者同士の意見交換が、アイデアを生み出し、地域の将来を思い描いた。

出席者(左)は、結集する福岡市の「都市」とは利益あり、交流が武器になるという意見。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。

出席者(左)は、結集する福岡市の「都市」とは利益あり、交流が武器になるという意見。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。福岡市は、都市部の農業を推進する。

8月25日(木) 地域と語ろう隊 長住編・予告記事

高度経済成長期に宅地開発され、30、40歳の家庭が大量に入居した福岡市南区の長住地区は、いま顕著な高齢化に直面している。地域課題の解決策を考える西日本新聞社の「地域と語ろう隊」は26日、「都市型高齢社会の今後」を論点に、長住の老人「こいの家」住民と記者の座談会(非公開)を開く。25年後の都市像を描く福岡市の「新ビジョン」策定に合わせて企画した。

進む都市型高齢社会

支援の形を 長住で探る

長住地区は、九州最大の繁華街・天神から車で20分。約3600世帯、約8400人が暮らす。旧日本住宅公団が1960年代に分譲地や集合住宅を精製(市平均17・4%)。逆に「働き盛りのサラリーマン」家庭が中心で、お年寄り(60・1多)同88・5%)は60・1多(同88・5%)と南区内で最も低い。懸念されるのが、お年寄りが半世紀を経て、高

あす座談会 住民つなぐ糸口に

高齢身世帯は12・2%、高齢夫婦世帯は13・4%に達する。約50棟におよぼす「長住団地」は、約2500世帯が暮らす公団団地。過去10年間で7人の孤独死が発生し、5人が危ういところで救われたという。住民の1人は「見守りたてどもどこに誰がいるか分からない」と悩む。個人情報保護法の「壁」などで、住民間の連帯が難しくなったとされる中、高齢者の孤立を防ぐこと「集いの場」をつくる動きも出ている。支援者、被支援者がつながるための糸口を探る。

(川口安子)

8月27日(土) 地域と語ろう隊 長住編・詳報記事

高齢化進む長住で座談会 世代超え「支え合い」

地域活動の後継者発掘を

地域課題の解決策を住民と記者が共に考える西日本新聞の「地域と語ろう隊」は26日、福岡市南区の長住地区で「都市型高齢社会をテーマに座談会を開いた。お年寄りの見守り、世代間交流の大切さ、人材発掘を話題に多岐にわたり、盛んな議論が交わされた。

出席者(5人)は、橋さん(80)長住団地自治世帯が暮らす公団団地、瓜豊さん(80)長住校区(会長)安東光子さん「長住団地」を築き、自治協議会長、小金井さん(79)楽しい髪を考えた長住中央公園内の老人いりこんだん会代表、花田(こい)の家で討論した。敦子さん(53)長住1丁目 高経成長期に農地目録民生委員、十時裕さんが宅地開発された長住地区(58)福岡市地域活動区は、入居者の中心だった30、40代の子育て世代。座談会は、25年後の都市像を見据える福岡市の「新ビジョン」策定に合わせて開催。約1360世帯が暮らす長住地区の高齢率は12・2%、高齢夫婦世帯は13・4%に達する。約50棟におよぼす「長住団地」は、約2500世帯が暮らす公団団地。過去10年間で7人の孤独死が発生し、5人が危ういところで救われたという。住民の1人は「見守りたてどもどこに誰がいるか分からない」と悩む。個人情報保護法の「壁」などで、住民間の連帯が難しくなったとされる中、高齢者の孤立を防ぐこと「集いの場」をつくる動きも出ている。支援者、被支援者がつながるための糸口を探る。



住宅棟が建ち並び約1360世帯が暮らす長住団地を視察する出席者たち(左)地元の高齢者が利用する「老人いこいの家」で意見が交わされた

街を作ってきた百負がある。人情保護法の壁で、見守り、特養ホーム誘致など、自分たちの運動で、例も起きているという長住団地の小金井さんは「個援者を採すしかない」と強調。出席者は、地域で分担の仕組みを考えれば、いいと声が上がった。出席者は住民が自治に参加しやすい環境を整えようとした。これは「集いの場」の空手なも、小規模な図書館があれば自然に人と触れ合うのでは、と意見が出され、商店街の空き店舗は「元々の場」として有効利用できる。地域活動に詳しい十時さんは「長住の自治は進んでいるが、上の世代が持つノウハウが次の世代に伝わっていない」と指摘。人材は必ずいる。地元を引っ張ってきた皆さんが「発掘」していただきたいと激励した。

出席者は、現代社会に近道はなく、活動の積み重ね、それが地域力となることを確かめた。(南区担当 川口安子)

8月29日(月) 地域と語ろう隊・釜山編・予告記事

都市間わずか200キロ 伸び目覚ましい往来

福岡―釜山交流 深化へ知恵絞る

対馬海峡を挟んで向かい合う福岡市と韓国・釜山市。両市を結ぶ船舶航路の年間利用者(2010年)は約69万3千人に上り、従来の伸びは目覚ましい。都市間距離がわずか200キロの強みを生かし、この交流をどう発展させるか、地域課題の解決策を考える西日本新聞社の「地域と語ろう隊」は20日、国際交流を論点に、福岡市博多区の博多港国際ターミナルで福岡・釜山両市民と記者の座談会(非公開)を開く。25年後の都市像を描く福岡市の「新ビジョン」策定を機に企画した。



10年に博多、釜山両港を結ぶ高速船やフェリーを利用した人は、前年から約12万人増えた。交流人口は為替変動などの影響を受けながらも、ほぼ「右肩上がり」が続く。ただ内訳をみると、韓国人の40万6千人に対し、日本人は27万3千人と「格差」もみられる。福岡・釜山間の高速船利用者を対象とする09年度の福岡アジア都市研究所(福岡市)の調査で、釜山に行く日本人の87%

きょう博多港 両市民ら座談会

「韓国語がほとんど分からない」と答えたのに、福岡を訪れた韓国人は「日本語がほとんど分からない」が62%にとどまった。旅行の主流、韓国人は泊3日の九州周遊観光、日本はグルメと買い物目的の1泊2日という結果が出た。同研究所の新井直樹研究主査は「日本人は九州と韓国南部との千年以上の交流史に目を向けるなど、交流の深化を努める必要がある」と指摘する。

が「韓国語がほとんど分からない」と答えたのに、福岡を訪れた韓国人は「日本語がほとんど分からない」が62%にとどまった。旅行の主流、韓国人は泊3日の九州周遊観光、日本はグルメと買い物目的の1泊2日という結果が出た。同研究所の新井直樹研究主査は「日本人は九州と韓国南部との千年以上の交流史に目を向けるなど、交流の深化を努める必要がある」と指摘する。

8月30日(火) 地域と語ろう隊・釜山編・詳報記事

言葉の壁解消に支援を 芸術家派遣に助成制度

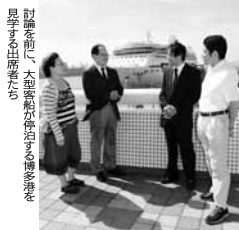
「協力し他都市の見本に」



地域課題の解決策を市や記者が共々考える日本新聞社の「地域と語ろう隊」は20日、韓国・釜山市と国際観覧船を結ぶ福岡市博多区の博多港国際ターミナルビルで「国際交流をテーマに座談会を開く。出席は『言葉の壁を解消するための施策や、釜山に派遣する芸術家への派遣制度』、福岡・釜山両市の交流の深化に向けた具体案を語り合った。

地域課題の解決策を市や記者が共々考える日本新聞社の「地域と語ろう隊」は20日、韓国・釜山市と国際観覧船を結ぶ福岡市博多区の博多港国際ターミナルビルで「国際交流をテーマに座談会を開く。出席は『言葉の壁を解消するための施策や、釜山に派遣する芸術家への派遣制度』、福岡・釜山両市の交流の深化に向けた具体案を語り合った。

福岡・釜山 交流深化へ具体策



博多港で両市民ら座談会



博多港国際ターミナルビル内のレストランを会場に、市民交流の意義や課題が活発に議論された

昨年利用者は、韓国人が深化する」と話した。希望する市民の登録制度(40万6千人)が日本人。交流を深めたいの捉えも異なるとされた。小佐野は「福岡市・釜山間の交流を一元的に担った、日本人と韓国人の両方から必要な支援を市に求めたい」と話した。同研究所の新井直樹研究主査は「日本人は九州と韓国南部との千年以上の交流史に目を向けるなど、交流の深化を努める必要がある」と指摘する。